

# 令和4年度 公益社団法人 京都鴨沂会 事業報告

令和4年度は、政府及び京都府のコロナ感染症予防対策を踏まえた予防措置を執りつつ事業を実施した。とりわけ、8月初旬の感染症急拡大を受けて、京都府では「京都B A・5対策強化措置」（令和4年8月4日から同年9月25日まで）がとられ、高校教育振興事業と会誌発行以外の公益目的事業の実施は一部制約を受けたが、ICT導人による新しい業務環境の整備を進めて、法人業務、公益目的事業、収益事業を実施した。

## I 公益目的事業

### （公1）高等学校教育を振興するための奨学金及び教育研究助成費

高等学校教育の振興と学力向上に寄与し、社会の発展に寄与する人材を育成し、わが国の教育振興に貢献することを目的として、次の事業を行う。

#### ア 奨学金（公募）

「京都鴨沂会奨学金」 月額 10,000円

勉学意欲がありながら、経済的理由により修学が困難な公立高等学校生徒に対して奨学金を給付する。

令和4年度は、京都公立高校から15名（3年6名、2年9名）の応募があり、有識者で構成される選考委員会により慎重に審

議し、9校14名（3年生6名、2年生8名）を選出し、理事会の議を経て、月額1万円の給付を実施した。

「大学進学支援金」 30,000円

勉学意欲がありながら経済的理由により大学への進学をためらう高校生に対して、大学への進学を支援する事業を実施する。令和4年度は、コロナ禍の最前線で奮闘される医師・看護師など医療従事者を目標として大学進学する生徒を対象として公募し、京都公立高校6校から6名の応募があり、選考委員会により慎重に審議し、理事会の議を経て応募者6名を決定して支援金3万円を給付した。

#### イ 教育研究の支援（公募）

「京都鴨沂会教育研究助成費」

高校独自の教育特別事業として、①授業内容の向上をめざす研究、②教員の資質向上をめざす研究に対して必要資金の一部を1件10万円以内で2件を限度として助成する。

令和4年度は、下記の2件の応募があり、選考委員会により慎重に審議し、理事会の議を経て2件に各10万円の助成費を給付した。

- ・「生徒主体の探究プログラム—化学分野の開発と実践」  
岡本宇準 京都府立鴨沂高等学校

・「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」iPadを

活用した創造的な学びの実践」

渡邊野子 京都市立銅駝美術工芸高等学校

## (公2) 高齢者福祉及び国際相互理解の促進に資するため

### の芸術・伝統文化講習会とボランティア活動

#### ア 芸術・伝統文化講習会の開催

高齢者福祉、留学生支援など地域活性化に資するボランティア活動のきっかけ作りと担い手の育成のための講習会を開催する。

#### 「京都鴨沂会文化教室」

茶道教室 講師 吉田宗翠

華道教室 講師 中谷豊甫

能楽教室 講師 惣明貞助

香道教室 講師 早川光菜

紹ざし教室 講師 北村悠紀子

ハワイアンフラ教室 講師 ユミコ レイモミ

「京都B.A.5対策強化措置」が執られた8月および9月を一部休講とした。

#### イ 地域活性化に資する自主的グループ活動の支援

学習効果を地域に還元する実践プログラムを自主的に創りあげる活動の側面的なサポートを行う。

令和4年度は、地域活性化グループ活動の自粛により、助成費への応募がなかった。

#### ウ 高齢者福祉ボランティア活動の推進

ボランティア活動の情報提供と実践のための福祉教育及び福祉ボランティア活動のコーディネートを行う事業である。

令和4年度は、外部の人の受け入れを制限する高齢者福祉施

設もあり、例年40件に及ぶ福祉施設、医療機関などへのボランティア要員の派遣と助成事業は自粛し実施されなかった。

#### エ 留学生の伝統文化学習と生活適応のための支援活動

文化教室で培った伝統文化の知識と手技をコミュニケーションツールとして外国人留学生に対する日本伝統文化の育成に寄与し、生活適応上の指導助言など留学生支援により国際理解を深め地域社会の活性化に貢献する事業である。

#### 「高校留学生のための日本伝統文化体験学習会」

令和5年2月11日 於 鴨沂会館

茶道 裏千家 講師 吉田宗翠

「講師による薄茶点前の実演と呈茶及び留学生の益略手間の実習」

華道 未生流笹岡 講師 中谷豊甫

「伝統文化を踏まえた生け花の実習」

書道 講師 塩小路光瑞

「基礎知識・基礎技術・作品制作」

令和4年度はAFS（アメリカン・フィールド・サーヴィス）の要請を受け、交換留学生13名の受講生を受け入れた。トルコから花園高校へ1名、モンゴル・インドネシアから光華高校へ2名、ノルウェーから山城高校へ1名、韓国・スリランカから立命館高校へ2名、タイから福知山高校へ1名、そして中国・カンボジア・フィリピン・パキスタン・ネパール・バン格拉ディシュから福知山成美高校へ留学している高校生6名、付き添い日本人大学生3名及びAFS日本協会京都支部から1名が参加して伝統文化学習会が行われた。西尾理事挨拶と留学生、講師その他の参加者の自己紹介の後、日本伝統文化についての講義と実習を行なった。実習終了後、留学生は伝統文化体験結果の

発表と感想文の作成を行い、写真撮影をして閉会した。

## 「外国人のための日本伝統文化教室」

ゲーテ・インスティテュートから研究者及びアーティストが参加した。

令和4年10月20日 茶道教室 講師 吉田宗翠 参加者5名  
令和4年11月9日 華道教室 講師 中谷豊甫 参加者4名  
令和4年11月23日 香道教室 講師 早川光菜 参加者2名  
令和5年3月7日 華道教室 講師 中谷豊甫 参加者2名  
令和5年3月23日 茶道教室 講師 天野宗信 参加者2名

## （公3）生涯学習を支援するための公開講演

学術・芸術・文芸・環境・医療・福祉などに関する公開講座を開催し、地域住民の生涯学習と福祉教育を支援して地域の文化振興に資する。

令和4年度教養講座はコロナ対策として集会及び施設利用の制限により開催できなかったため、鴨沂会誌159号に誌上開催として掲載した。

### 「教養講座」

第55回 教養講座 稲垣千代子 関西医科大学名誉教授

「認知症の治療と予防はできるのか」

第56回 教養講座 末川 協 建築設計事務所主宰

「京都祇園祭大船鉾・鷹山の復元設計」

## （公4）文化芸術及び生涯学習支援等の情報提供

公益法人としての事業活動の一般への開示の目的に加えて、伝統文化芸術、環境、福祉に関する論文を有識者による編集委員会により編集し、文化芸術及び生涯学習支援のための情報提供とともに教育史、女性史の資料として文化振興に貢献する目

的で以下の事業を行った。

## ア 鴨沂会誌の刊行

令和4年度刊行の鴨沂会誌第159号には、教養講座の論文、高等学校教育振興支援（教育研究助成、高校奨学生、大学進学支援）の報告、ボランティア活動の支援と人材育成のための講習会（文化教室、高校留学生のための日本伝統文化体験学習会）の報告など、前年度の公益目的事業の成果を掲載した。また、公益法人としての事業及び会計を公開するために、令和3年度事業報告・会務報告、収支決算報告と令和4年度事業計画・収支予算を掲載した。

## イ 会誌及び史料の保存管理

明治20年刊行以来の150冊を超える鴨沂会誌全号とともに編集資料の保存管理を行なっている。

今年度は、所蔵する会誌や資料の保全を図るため、明治20年創刊の第1号から大正3年発行の第35号の35冊の鴨沂会誌のデジタル化を実施し、本会内での閲覧ルールを厳格なものに改定した。

## II 会報の刊行その他会員向け事業

### ア 鴨沂会報の刊行

法人活動及び会員の近況を会員へ報告する目的で会報第19号を編集し、全会員に配布した。

### イ 令和4年度会員総会の開催

法人活動の報告のために第132回京都鴨沂会年会において会員総会を開催した。

### Ⅲ 収益事業

#### ホール、会議室及び駐車場の賃貸

鴨沂会館のホール及び会議室等は、オーケストラ、室内楽、コーラス、舞踏などの常設練習場、講演会、会議、伝統芸能の教室など文化施設として利用されている。また、利用者の便宜と安全のため駐車場を整備し一般の利用に供している。

該団体が一定期間利用を自粛するなどの協力も得られたので、大事には至らなかった。なお、会館の清掃や消毒は一層徹底して実施した。

#### 「新型コロナウイルス感染症対策に伴う鴨沂会館の運営」

令和3年度に引きつづき新型コロナウイルス感染症防止対策として、施設の使用には「三密」を避け、手指消毒、体温チェックなどの感染防止対策を継続した。令和4年8月初旬の感染症急拡大を受けて、京都府では「京都B・A・5対策強化措置」（令和4年8月4日から同年9月25日まで）がとられ、会館の運営もこれに応じて「高齢者・基礎疾患のある方への会館利用自粛のお願い」等の措置やコーラスや吹奏楽など一部利用者への定員<sup>1)</sup>制限を要請した。

令和4年10月1日より、「京都B・A・5対策強化措置」の終了を受けて、感染拡大防止対策として実施してきた定員制限の要請を撤廃した。一方、利用者の手指の消毒やマスクの着用などの感染予防対策、三密の回避は引き続き要請するなど利用者にも必要な感染防止のための協力を求めた。

令和5年3月13日以降は、「マスクの着用は個人の判断に委ねる」との京都府の指針変更を受け、会館利用についても、マスク着用について基本的に個人判断に委ねるとしたが、コーラスや吹奏楽など一部利用者へは引き続きマスクの着用を要請して業務を実施した。

この結果、7月～9月、12月には、利用団体から陽性者の発生が認められたが、鴨沂会館利用に起因する感染ではなく、当